

地域連携パスについて

「療養手帳」の使い方

10階東病棟 井村まゆみ



患者さま情報

(治療前の検査値)

カルテ番号			
患者様氏名			
生年月日			
性別	(男・女)	年齢	歳
身長	cm	体重	kg
肝臓		(F A)	
合併症 (糖尿病・高血圧・その他)			
治療		ベガシス単独	
		ベガシス/コベガス	
		ベグイントロン/レベートル	
かかりつけ医			
HCVセロタイプ		(1・2・判定不能)	
HCV-RNA(TagMan)		LogIU/ml	
白血球数	/ μ	ヘモグロビン	g/d
好中球数	/ μ	血小板数	$\times 10^3/\mu$
AST(GOT)	IU/l	ALT(GPT)	IU/l
AFP	ng/ml	甲状腺機能異常	(無・有)
その他		その他	

年 月 日からベグイントロン・ベガシス、ベグイントロン注射を週1回、合計 週間の予定で開始しました。併用療法の場合は、リバビリン(コベガス、レベートル)という内服薬と一緒に飲んでいます。

【あなたの主治医の役割】

1. かかりつけ医では

入院してベグイントロン・リバビリン併用療法の導入が終了した後、市大病院で経過観察を2ヵ月行ない、病状の安定した方はかかりつけ医の先生のところ、または、そのまま市大病院で継続して週に1回ベグイントロン注射の注射を打って頂きます。



おもに、

- 1) 1週毎のベグイントロン注射
- 2) 肝炎治療薬を含めたお薬の処方
- 3) 1週毎の血液検査(必要な方のみ)
- 4) 風邪をひいたりして、熱が出た時の診察と治療などを行っていただきます。



【日常生活で気をつけること】

1. 安静と運動

過去には安静が強調されてきましたが、適度な有酸素運動を取り入れましょう。適度な有酸素運動とは、**1日30分程度の散歩で、毎日、続けることが大切です。**ただし、AST(GOT)、ALT(GPT)が高い時(200以上)は安静が必要です。また、ペグインターフェロンの副作用で、食欲がなく、しんどい時は無理をしないようにしてください。



2. 食事

基本的には、規則正しくバランスの良い食事を取りましょう。入院中に出された献立表やカロリーを基本とし、鉄分の取りすぎに注意しましょう。(過剰な鉄分は肝臓に負担をかけることがあります)また、食後1時間は安静にするよう、心がけてください。



3. アルコール

基本的に肝臓が悪い人は**飲酒をきません。**



4. 風呂

体調がすぐれないときは、入浴は控えて下さい。熱い風呂や長風呂は避けてください。**食後1時間は入浴をさけて下さい。**



5. 旅行

ペグインターフェロン注射を途中で一回休むことは可能です。無理のないスケジュールなら、治療中でも旅行は可能です。

6. 肝炎ウイルス感染予防

出血時の血液付着物の処理は自分でして下さい。かみそり・歯ブラシなどは共用しないようにして下さい。乳幼児との接触は特に問題はありませんが、食べ物の口移しはしないようにして下さい。



~ 8 ~

~ 9 ~

【C型肝炎連携パス記入例】

1. 副作用の記入方法

インターフェロンを始めてから下記のような症状があれば副作用欄に番号を記入しましょう。**症状が強い時は『かかりつけ医』または、『市大病院の担当医』に相談してください。**

- ①注射部位の発赤・かゆみ
- ②注射部位以外の発赤・かゆみ
- ③38℃以上の発熱・悪寒戦慄(寒くてふるえる)
- ④咳がでる
- ⑤食欲不振
- ⑥頭痛・関節痛
- ⑦口内炎・味覚障害
- ⑧脱毛
- ⑨難聴
- ⑩下痢・便秘
- ⑪精神的におかしい(憂鬱・イライラする)
- ⑫眼科で異常を言われた。目がおかしい
- ⑬その他

2. (検査値や症状などの記入例)

診療場所	かかりつけ医	市大病院
経過(注射回数)	11月 5日	12月 15日
月日	9月 8日	9月 15日
ペグインターフェロン	180μg	180μg
リバビリン	800mg	800mg
検査	血液検査	血液検査
白血球(WBC) / μl	3200	3100
肝中球(Neu) / μl	1528	1520
ヘモグロビン(Hb) g/dl	13.6	13.5
血小板数(PLT) × 10 ³ / μl	134	125
AST(GOT) IU/l	53	54
ALT(GPT) IU/l	55	53
HCV-RNA量 Log IU/ml		<1.2
血圧 mmHg	115/70	117/74
体温 ℃	35.3	
体重 Kg	65.3	
副作用(症状)	① ②	
メモ	熱っぽい	注射した所がかゆい

副作用があれば、該当番号を副作用欄に記入しましょう。

※詳細は14ページ

- 副作用の例
- ①発赤
 - ②かゆみ
 - ③発熱
 - ④咳
 - ⑤食欲不振
 - ⑥頭痛
 - ⑦口内炎
 - ⑧脱毛
 - ⑨難聴
 - ⑩下痢
 - ⑪精神
 - ⑫眼科
 - ⑬その他

~ 14 ~

~ 15 ~

大阪市立大学付属病院の各部署・担当のご案内

【医療相談窓口】

患者さんが病院に対する安心感と信頼感を持って療養に専念していただけるように医療相談窓口（1階①番、②番窓口）で相談をお受けしています。また、がん診療連携拠点病院として、がんに関する相談もお受けしております。

医療相談窓口：1階の①番、②番窓口
窓口開設時間：8:30～16:45
（土曜・日曜・祝日を除く）
電話番号：06-6645-2121（代表）
06-6645-2316（9:00～16:45の平日）

【患者支援担当】

患者支援担当は当病院に入院・通院されている患者さん・家族の方が安心して穏やかな医療・看護が受けられるよう、医師または看護師など大学病院内のスタッフとの連携はもとより、地域の医療・保健・福祉などの各機関と協働・連携をとりながら、より満足度の高い療養生活と充実した日々を送っていただけるように支援を行っています。

【地域医療連絡室】

地域医療連絡室では、地域医療機関との医療連携を進め、患者さんに安心して受診していただくため、地域医療機関の先生方と当センター医師とのスムーズな連絡・連携の窓口としての役割を果たしています。

～ 36 ～

【医療心理相談】

がんの告知後や手術前後の心理的な不安を抱える患者さん・家族に対して心理的援助を行います。医療心理相談を希望される方は医療相談窓口へお申し出ください。

【予約変更の場合】

肝臓腫瘍科⑩では、診療の変更は14時から16時までとなっております。尚、検査予約の変更はできません。やむを得ない場合は中止し、直接来院のうえ主治医にお申し出下さい。

【予約外受診】

必要があれば、予約外診療も受け付けています。受診の際は、診療受付①までお問い合わせください。

【夜間・休日などの対応】

緊急を要する場合で、休日や夜間等かかりつけ医を受診できないときは、大阪市立大学付属病院までご連絡ください。

電話番号：06-6645-2121（代表）



～ 37 ～



10. 医療者からのメッセージ！！

あなたが安心して治療や検査を続けていくためには、家族とともに医師や看護師とコミュニケーションを深め、一緒にこの病気と闘っていく気持ちが大切です。まだまだ不安や悩みがあると思いますが、あなたと同じ経験をされた患者さんは沢山おられます。そして、その多くの方が病気を克服し、充実した人生を送っておられることを忘れないで下さい。病気になってかえって良かったと思われるような、明るく自分らしい生活スタイルを探してみてください。いつでも、私たち医療者は応援しています。

また、明るく前向きに生きていける人は病気を克服する力があるといわれています。そこで、当科では定期的に肝臓病教室を開催しております。最近では音楽療法を取り入れました。是非参加してみたいかがでしょうか。何かが変わるかもしれません。



～ 13 ～



私の療養手帳
～C型肝炎インターフェロン連携パス～



大阪市立大学医学部附属病院

※診察時に必ずお持ちください

